

# 青木村消防団広報

## KODAMA

発行所／青木村消防団 〒386-1601 長野県小県郡青木村大字田沢111 TEL.0268-49-0111  
発行責任者／増田 宗由

No. 9

発行：平成22年2月1日



平成21年度青木村消防団役員と退団者の皆様



### 平成二十二年 青木村消防出初式 式辞

団長 増田 宗由

平成二十二年の輝かしい新春を迎え、本日ここに青木村消防出初式を挙行したところ、年頭何かとご多忙にもかかわらず、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、心より厚く御礼を申し上げます。また

団員各位に対しましては、日頃のご苦労とご活躍に深く感謝申し上げます。

さて昨年も全国各地で地震や風水害の被害報告が相次ぎました。世界に目を向けても、地球環境の変化に伴う自然災害の大型化が報道されています。台湾やフィリピンまた国内においても、台風による集中豪雨で多くの被害が発生しています。幸いにも青木村におきましては、行方不明

者の捜索や、家屋火災、自然災害への出動が3件ありましたが、共に人的被害がなく最小限の被害に食い止められました。このことは川西消防署職員の皆様のご協力と、日頃からの村民の皆様防災意識の高さ、ならびに団員諸君の予防広報活動の賜物と感謝いたします。

また昨年6月からすべての住宅へ住宅用火災報知機の設置が義務化されましたが、青木村に置きましては、村をはじめ区や団員の皆様にご協力いただき、設置状況調査や、独居老人宅への住宅用火災報知機の設置を行うことができました。

我々若い力が集う消防団は、地域に密着した活動を行うことから「人づくり」、「村づくり」の一翼を担っています。諸先輩方の築いてこられた素晴らしい歴史や伝統を受け継ぎ、郷土愛護の精神を忘れることなく、明るく住み良き青木村を目指しそれぞれの立場で今後も努力してまいります。

宮原村長をはじめ青木村議

会や関係各位の温かい、ご理解とご支援により、年々消防力のアップが図られており、本年度も積載車や消防施設の更新など格段のご配慮をいただきました。このことは団員の士気高揚と同時に、消防団活動の一層の向上が期待されるものであり、村当局の防災と消防団活動に対する深いご理解の賜物と、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

最後に、今回退団されます退団者各位と、そのご家族の皆様におかれましては、永年にわたるご苦労に心より感謝申し上げます。

この一年が災害のない明るい年でありますように祈念いたしますと共に、本日も臨席を賜りました来賓各位ならびに、団員諸君の益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げ式辞いたします。



# 青木村消防団機構改革検討委員会について

## 平成二十一年度のまとめとして

消防団では、今後の消防団のあり方や、消防団の抱える問題点の改善策を考える、消防団機構改革検討委員会を設置し、四月より定期的に話し合いの場を設け、今後の方向性を探る中で、各部の検討委

員をとおして、団員の意見を集約してまいりました。また、一部の分団では、区域内の住民の方に、消防団に対するアンケートを実施し、団員の視点以外に立っての問題点の洗い出しに努めてまい



りました。

村民の皆さんもご承知のとおり、消防団の抱える一番の問題は、団員数の減少にあります。現在は常備消防が完備され、有事の際には専門の職業である、消防署の職員が災害現場での第一線を担っています。しかし、常備消防が広域化され出動も広範囲にわたること、同一地域で同時に複数の災害が起きた場合などは、地域の状況を良く知る消防団員の役割が重要となります。常備消防と消防団が連携協力することで、地域の防災基盤は強化されます。

また、消防団は地域の防災の担い手としてだけではなく、地域コミュニティの中心的な役割を持つ若い力の結集であり、地域活性化の担い手でもあると思います。このため、今後も消防団員の減少については、消防団だけではなく、地域住民の皆さんと一

緒に考えていく必要があると思われれます。消防団では、今後も消防団機構改革検討委員会において、団員減少の問題をはじめ、消防団の取巻く諸問題について検討を進めてまいります。その内容について、団の広報で報告してまいります。村民の皆様のご意見もぜひ消防団へお寄せください。

### 平成二十一年度機構改革委員会決定された事項

- 消防団として取組む事項
- ・部の統合等について、再度検討（役職の人数も含め）
- ・女性消防団員について今後継続して検討
- ・本部付団員の検討
- ・バイク隊の導入

**住宅用火災警報器の早期取り付けを！**

一般住宅に対し、住宅用火災警報器の取り付けが義務付けられています。

設置しなければならぬ部屋は、人が就寝する部屋（寝室、子ども部屋等）です。また、それらの部屋が2階にある場合は、階段の上にも設置する必要があります。

警報器の価格は、四千元〜九千元が中心です。

取り付けは、電池式のものであれば、ドライバー一本で簡単にできます。

早目の取り付けをお願いします。

お問い合わせ先  
上田地域広域連合消防本部  
予防課

電話二六〇一一九  
川西消防署  
電話三一〇一一九



### 長野県情報ネットワーク協会主催 小学生放送コンクール 小学生高学年の部「優秀賞」受賞作品

「今一番やってみたい事」  
青木村立青木小学校六年 佐藤菜々実さん

私が、今一番やってみたい事は、消防のポンプ操法です。でも年々には、出来ませんが、大人になったら地いきのために、災害が起きた時すぐ対応できるようにがんばりたいです。何で、ポンプ操法を今一番やりたいかという

も消防団のみなさんが、早朝から訓練をしています。みんな良い成績がとれば良いと思います。  
(原文そのまま掲載しています)

と、お父さんがポンプ操法の選手の時、練習を見にいったら選手みんなが、規律正しく一つの事に一生けんめい練習する姿を見て感動したからです。さらに、おとうさんのチームが優勝した時は、みんなのよるこぶ姿を見て、本当に感動しました。私も、何をやるにもあの一生けんめいさと、みんなが味わっていた感動する所を見て、毎日毎日がんばって、がんばって優勝する事を知りました。私もこれをお手本に、何事もあきらめないで、努力して行きたいと思えます。これがポンプ操法をやりたい理由です。今

この作文は、長野県情報ネットワーク協会主催の第三十七回小学生放送コンクールの高学年の部において、ポンプ操法を題材にポンプ操法をうじて受けた感動が綴られており、見事優秀賞を受賞されました。消防団では、一月十日に行われました、消防出初式において、消防団活動のPRに寄与されたことに感謝し、特別表彰をお贈りしました。



佐藤菜々実さん

## あなたの力で青木村をまもる ～消防団員募集～

### 消防団員募集

消防団は、「自分たちの村は自分たちで守る」という郷土愛護の精神のもと、村民の生命、財産を災害から守るべく活動をしています。ぜひ消防団に入団いただき、ともにこの青木村を守る、さらには発展させるため、消防団活動をしませんか。ぜひ一人でも多くの方に入団いただけることを期待しています。

### ～消防団の主な活動～

◎災害時  
災害や大規模な災害の発生時に、地域住民の生命・身体及び財産を守るため、消防団は様々な活動をしています。阪神・淡路大震災では、日ごろの地域に密着した活動の経験を活かし、効果的な消火活動や救援活動が実施されました。

### ◎平常時の活動

多様化する災害や救急、火災予防活動に適切に対応するために、消防団員の知識習得と技術向上が不可欠です。そのため、消防団員は、日ごろから訓練に励んでいます。

### 消防団協力員募集

平成20年度から消防協力員制度が発足し、現在37人の皆さんが協力員として再入団していただいております。しかしながら、消防団員は定数割れの状況にあり、有事の際には出動いただき団員とともに活動いただける協力団員を募集します。皆様のご協力をお願いします。

### 広報こだま編集委員

警備長	小林 隆
第一分団	増田 亮
第二分団	若林 広明
第三分団	増田 尚之
第四分団	若林 勝則
本部班長	塩澤 和宏

### 申し込み・お問い合わせ先

青木村役場 総務課  
総務企画係内 消防団事務局  
電話/49-0111(代)  
随時募集しています。

## 地域を愛し、地域の為に

副団長 岩下 通孝



日頃より消防団活動に対し、村民の皆様には深いご理解とご協力を賜り、誠に

ありがとうございます。本年度は大きな火災・自然災害も発生しておらず、これも村民の皆様や各関係者の高い防災意識と、消防団員の防火啓発広報や警戒など地道な活動の積み重ねの成果ではないかと思えます。

## 平成21年度を振り返って

本部長 上原 博信



平成21年度も残すところ2ヶ月あまりとなりました。今年度は幸いにも大きな

火災や災害がなく、団員はもとより村民一人一人の皆様の日ごろからの協力の賜物であるところをお借りして感謝申し上げます。自分自身本部長という大役を受けてから今日まで、焼き火の煙が山から見えたり、サイレンの音が聞こえたりすると、あわてて家を飛び出したことが何度もありました。そのとき、今まではいかに消防に対する意識が低かったかと自分自身痛感しました。今後もふるさと青木村が自立の村として、また安全で安心な村として子ども達に引

## 一年間を振り返って

水 cứu護長 宮入 真司



村民の皆様には、日頃より、消防団活動に対し、深いご理解とご協力を賜り、誠に

ありがとうございます。今年度を振り返ってみると、各地でゲリラ豪雨や落雷などの自然災害が多く発生し、青木村においても、落雷による火災、土砂災害

## ラッパ班と歩んだ一年

ラッパ班長 小泉 洋



ラッパ班長の任命を受け、早いもので一年が経とうとしています。今思うと、

ラッパ経験のない私がラッパ班のリーダーとして、班員達を引っ張っていたのだろうか、とても悩んだ時期がありました。プレッシャーに押し潰されそうになった時でした。現第一・第四の分団長から「昨年副ラッパ班長を経験した二名を、今年もラッパ班長のサポート役にまわす。」との激励の言葉を頂き、やるからには精一杯やるという気持ちにさせて頂きました。幸いにも今年度は、前ラッパ班長が築いてくださった基礎があり、スムーズに練習を行うことが出来ました。去る七月十二日に行われた上小

## 一年を振り返り思うこと

警備長 小林 隆



日頃より村民の皆様には、消防団活動に対し、ご理解ご協力賜りありがとうございます。

近年、災害は複雑多様化、大規模化が一層進み予期し難い被害が発生しております。住民の皆様は、安全安心に対する関心が益々高まっていると思います。防災は、地域一人一人が防災に対する高い意識を持つことが最も重要です。消防団は、地域皆様方と一体となり「安全安心で暮らせる村づくり」を望んでいます。今年度は、幸いにも大きな災害、火災とも発生しておりません。これも皆様のご協力と高い防災意識のおかげだと思っております。

先日行われました青木村消防出初式においては、今年度のラッパ活動の集大成として、班員一人ひとりがそれぞれの力を存分に発揮し心に響く吹奏を行い、厳粛かつ盛大なうちに初式を閉じることが出来ました。この一年ラッパ班員と共に経験した事は、自身のこれからの人生の糧となる事と思います。最後に、青木村消防団が益々発展していけるよう、村民の皆様のご理解・御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、無火災無災害を目指し頑張っておりますので、今後の皆様のご支援ご協力をよろしくお願致します。

